



# 営農タイムリー！



## 病害虫防除について

2021年11月2日発行

### ネギ

#### 1. ネギアザミウマ

予報内容 発生量 : **平年比やや多い(前年比多い)**

#### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 年間、10世代以上くり返し、葉の表層を食害し、かすり状の食害痕を残す。ネギでは葉鞘分岐部や葉折れの内側に多く寄生する。
- (2) 本種はアイリス黄斑ウイルス(Iris yellow spot virus:IYSV)による病害でネギえそ条斑病を媒介する。
- (3) 被害葉及び収穫残さが本虫の発生源となるので、残さは一箇所にとめて積み上げ、表面をビニルで被覆する等適切に処分する。
- (4) 本種は、殺虫剤感受性低下が懸念されている。殺虫剤散布後は効果を十分に確認し、感受性の低下が疑われる場合は系統の異なる薬剤を散布する。また、感受性の低下を避けるため、系統の異なる殺虫剤をローテーション散布する。
- (5) 新系統(産雄性生殖系統)と在来系統の殺虫剤感受性は異なるので、新系統の発生を確認している地域(山城及び南丹地域)では注意する。



幼虫



成虫



# ■ ネギ ネギアザミウマの防除体系 例

育苗期に

播種時・定植時(植付時)

28 **ベシマーク<sup>SC</sup>**  
 [400倍 育苗期後半～定植当日 / 灌注 1回]

OR

4A  
**スタークル<sup>粒剤</sup>** [6kg/10a 1回]  
**アルバリン<sup>粒剤</sup>**  
**ダントツ<sup>粒剤</sup>** [6kg/10a 1回]  
**ベストガード<sup>粒剤</sup>** [6kg/10a 1回]  
**モスピラン<sup>粒剤</sup>** [6kg/10a 1回]

又は

28 **プリロツソ<sup>粒剤</sup>**  
 [6kg/10a 収穫前日まで / 株元散布 3回以内]

発生が認められたら

— **ファインセーブ<sup>フロアブル</sup>**  
 [1000～2000倍 収穫3日前まで / 2回以内]

28 4A **ミネクト<sup>デュオ<sup>粒剤</sup></sup>**  
 [プリロツソ+アクタラ]  
 [6kg/10a 定植時 / 1回  
 又は、収穫3日前まで / 株元散布 / 3回以内]

4A  
**アクタラ<sup>顆粒水溶剤</sup>** [1000～2000倍 収穫3日前まで / 3回以内]  
**アピマイヤー<sup>顆粒水和剤</sup>** [5000倍 収穫14日前まで / 2回以内]  
**スタークル<sup>顆粒水溶剤</sup>**  
**アルバリン<sup>顆粒水溶剤</sup>** [2000倍 収穫3日前まで / 2回以内]  
**ベストガード<sup>水溶剤</sup>** [1000～2000倍 収穫前日まで / 3回以内]  
**ダントツ<sup>水溶剤</sup>** [2000～4000倍 収穫3日前まで / 4回以内]  
**モスピラン<sup>顆粒水溶剤</sup>** [2000倍 収穫7日前まで / 3回以内]

30 **グレースィア<sup>乳剤</sup>**  
 [2000～3000倍 収穫7日前まで / 2回以内]  
**プロフレア<sup>SC</sup>**  
 [2000～4000倍 収穫前日まで / 3回以内]

15 **カスケード<sup>乳剤</sup>**  
 [4000倍 収穫14日前まで / 3回以内]

## ローテーション散布

UN **フレオフロアブル**  
 [1000倍 収穫3日前まで / 4回以内]

5 **ティアナ<sup>SC</sup>**  
 [2500～5000倍 収穫前日まで / 2回以内]

28 **ベネビア<sup>OD</sup>**  
 [2000倍 収穫前日まで / 3回以内]  
**ヨーバル<sup>フロアブル</sup>**  
 [2500～5000倍 収穫3日前まで / 3回以内]

29 **クララ<sup>DF</sup>**  
 [1000～2000倍 収穫前日まで / 3回以内]

6 **アグリメック**  
 [500～1000倍 収穫3日前まで / 3回以内]  
**アズキ<sup>乳剤</sup>**  
 [1000倍 収穫3日前まで / 3回以内]

# ■ ネギ シロイチモジヨトウ

**形態** 態：成虫は体長約11mm、開張25～29mmの灰褐色の夜蛾。ヨトウムシ類の中では小型。幼虫は成長すると約30mmで、緑褐色または灰褐色。

**生態と被害**：数多くの作物を加害するが、被害は特にネギ類が多い。ふ化した幼虫は表皮を若干食害したのち、短時間に葉内に潜入する。

**防除の**

**ポイント**：● 中・老齢になると極端に薬剤に強くなるので、薬剤はふ化幼虫期に散布する。



卵



成虫



蛹



幼虫



## ■ シロイチモジヨトウの防除体系 例

発生が認められたら

UN **フレオフロアブル**  
[1000倍 収穫3日前まで / 4回以内]

30

**グレースシア**® 乳剤

[2000～3000倍 収穫7日前まで / 2回以内]

**プロフレア**SC

[2000～4000倍 収穫前日まで / 3回以内]

21A  
F:39(C1)

**ハチハチ** 乳剤

[1000倍 収穫7日前まで / 2回以内]

5

**ティアナ**SC

[2500～5000倍 収穫前日まで / 2回以内]

15

**カスケード** 乳剤

[4000倍 収穫14日前まで / 3回以内]

**ローテーション散布**

28

**ベネビア**OD

[2000倍 収穫前日まで / 3回以内]

**ヨーバル**フロアブル

[2500～5000倍 収穫3日前まで / 3回以内]

6

**アニキ** 乳剤

[1000～2000倍 収穫3日前まで / 3回以内]

**アフアーム** 乳剤

[1000～2000倍 収穫7日前まで / 3回以内]

11A

**エコマスター**BT

[1000倍 発生初期但し、収穫前日まで / —]

6  
15

**アフアームエクセラ**®

顆粒水和剤

[1000～1500倍 収穫7日前まで / 3回以内]

# ■ダイコン 白さび病

**病徴と診断**：葉の裏面、茎、および花柄に発生する。初め乳白色の膨れた小斑点ができ、後に表皮が破れて白色粉状の胞子を飛散する。葉の表面の病斑部は輪郭が不明瞭な黄色斑紋となる。花柄が発病すると肥大して奇形となる。また、ダイコンの地際部付近の抽根部表皮に穫期近くになって、直径5～10mm程度の黒褐色リング症状を生じるワッカ症の原因も、白さび病菌と考えられている。

## 伝染経路と

**発病条件**：被害組織の中に形成された卵胞子や菌糸が伝染源となり、胞子嚢が飛散して伝染する。多雨の時に発生が多い。

## 防除の

### ポイント：

- 生育初期に雨が多かったり、水はけの悪い畑で発生多するため、排水を良くする。
- 冬どり大蔵、YRくらま、みの早生などの品種は発生が少ない傾向にある。
- 生育期の防除は発病の初期に重点をおく。また、ワッカ症を対象とする場合は、間引き7～15日後と15～20日後の2回散布が有効との試験例がある。



# ■ダイコン 白さび病（ワッカ症）

## ■ 白さび病（ワッカ症）の防除体系 例

は種前に

11(C3)  
4(A1)

**ユニフォーム** (リドミル+アミスター)  
PM

[6~9kg/10a 全面土壌混和 / 1回]

発病前は

M01(M)

**コサイド3000**

[1000倍 — / —]

**ヨネポン水和剤**

[500倍 収穫7日前まで / 4回以内]

M05(M)

**ダコニール1000**

[1000倍 収穫45日前まで / 3回以内]

予防剤を **ローテーション散布**

21(C4)

**ランマン**フロアブル

[2000倍 収穫3日前まで / 3回以内]

発病が認められたら

U17(U)

**ピシロック**フロアブル

[1000倍 収穫前日まで / 2回以内]

11(C3)

**アミスター<sup>®</sup>20**  
フロアブル

[2000倍 収穫14日前まで / 3回以内]

**メジャー**フロアブル

[2000倍 収穫3日前まで / 3回以内]

治療剤を加えた

**ローテーション散布**

24(D3)  
M01(M)

**カスミンボルドー**

【銅+シンの水和剤】

【カスミン+無機銅】

[1000倍 収穫14日前まで / 3回以内]

11(C3)  
M05(M)

**アミスター オプティ**

【アミスター+ダコニール】  
フロアブル

[1000倍 収穫45日前まで / 3回以内]